

「西高東低の気圧配置と筋状の雲」

12月7日は二十四節気の「大雪」。

これからの季節は「西高東低」の気圧配置が頻りに現れ、日本海側は雪、太平洋側は乾燥した晴天が多くなります。

この冬型の気圧配置は、大陸の寒気が強ければ強いほど一週間・十日と長く続くこととなりますが、昨冬(2005年から2006年)も大陸の強い寒気の流れ込みが続き「平成18年豪雪」と名付けられたほどの豪雪となり、久しぶりの寒い冬となりました。



上図は2001年12月15日午後1時頃の日本付近の雲の様子です。日本海には筋状の雲が現れ、上空の寒気が強いことを示しています。この日の雪雲は日本海で大量の水蒸気を補給して発生し、西または北西の気流に乗って、北日本や日本海側の陸地に流れ込んでいます。

特に日本海中部には強い雪雲(収束雲)が連なっており、東北地方南部から北陸地方にかけて雪が強くなっています。その一部は山脈を越えて、福島県や茨城県北部の太平洋側にまで流れ込んでおり、日立では同時刻頃、この雲の下でにわか雪を観測し、この冬の「初雪」が記録されました。

しかし、関東地方の大部分は雲のない領域が広がっています。

さて、気象庁の長期予報では、この冬(12月から2月)は、日本付近の冬型の気圧配置は平年より弱く、寒気の南下は長続きせず、気温は東・西日本では平年より高い予想となっています。

また、日本海側の降雪量は平年並か少ない見込みで「暖い冬」という予報となっています。

関東甲信地方でも、平年に比べると曇りや雨または雪の日が多く、この期間の平均気温は高い確率が50%、降水量は平年並や平年より多い確率がそれぞれ40%となっています。

<寒候期の気温・降水量の各階級の確率(%): 関東甲信地方>

【気温】



【降水量】



日立の気候表

【平年値(1971~2000年)】

Table with 4 columns: Category, 11月, 12月, 1月. Rows: 平均気温, 降水量, 日照時間.

※日立市の天気予報は、天気相談所ホームページで毎日発表しています。

http://www.jsdi.or.jp/~hctenso

また、ケーブルテレビの行政放送(5チャンネル)で天気予報(毎日2回)や悪天候が予想されるときには臨時の気象情報を発表しています。

電話での問合せは、直通電話 22-5520 IP電話 050-5528-5066 へどうぞ。